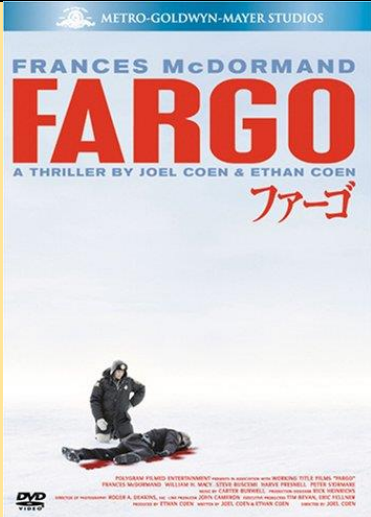


『ファーゴ』		原題 <i>Fargo</i>	1996 年	執筆：清水純子
制作国	アメリカ			
スタッフ&キャスト (監督、脚本家、俳優、その他)	スタッフ：監督・脚本:ジョエル・コーエン/ 製作・脚本:イーサン・コーエン/ 撮影:ロジャー・ディーキンス,ASC/ 音楽:カーター・バーウェル/ キャスト：フランシス・マクドーマンド: マージ/ スティーヴ・ブシェーミ: カール/ウィリアム・H・メイシー: ジェリー/ ピーター・ストーメア: ゲア/ ジョン・キャロル・リンチ: ノーム /			
画像				
カラー・モノクロ	カラー			
時間	98 分			
ストーリー	自動車セールスマンのジェリーは、多額の借金を清算するために実家が金持ちの妻の偽装誘拐を企て、二人のチンピラ、カールとゲアに実行を依頼する。しかしマージの計画通りにはいかず、チンピラは次々と殺人を犯し、妻と義父は殺され、身代金は奪われ、ジェリーも逮捕される。事件解決の手柄をたてた妊娠中の女性署長マージは、夫と 2 か月後に生まれる子供を待って幸福を味わう。			
時代設定	1987 年			
場所	ノース・ダコタ州ファーゴ、ミネソタ州			
社会背景	スタッフ(監督と脚本)であるコーエン兄弟の生まれ故郷である中西部が舞台、静かな田舎町の真っ白な雪の上を真っ赤な血で汚す人間の金銭欲。			
文化的背景	画面に登場するミネソタ州ブレイナードのポール・バニヤンの銅像は、この映画が「ほら話」(トール・テイルズ)であることを暗示する。人を担ぐユーモア「ほら話」の伝統は、マーク・トゥエインの小説「キャラベラス郡の名高き飛び蛙」やワシントン・アーヴィングの小説「リップ・ヴァン・ウィンクル」に始まるアメリカの特徴的文化の一つである。			
使用言語	英語 (スローテンポ、地方の訛り)			
テーマ	サスペンス仕立てに見せて観客を丸ごと担ぐユーモアと遊びの精神の披露、実話と称する殺人事件自体が狂言という手の込んだ映画構成。			

みどころ	映画の冒頭で「実話」だと記されるが、事実ではなくフィクションである。観客をかつぐ演出上の卓越したアメリカン・ユーモアが楽しめる。
印象深いせりふ	CARL: You want your own wife kidnapped? ... You - my point is, you pay the ransom - what eighty thousand bucks? - I mean, you give us half the ransom, forty thousand, you keep half. It's like robbing Peter to play Paul, it doesn't make any - JERRY: Okay, it's - see, it's not me payin' the ransom. The thing is, my wife, she's wealthy - her dad, he's real well off.
授業教材用 メリット	田舎の警察の地道な努力とひょうひょうとしたユーモア、「ほら話」のアメリカン・ユーモアの伝統がわかる、ゆっくりした聞き取りやすい英語。
授業教材用 デメリット	アメリカの「ほら話」の伝統を知らないとこの映画のおもしろみが半減する。ポール・バニヤンの銅像の意味も日本人には説明が必要。
映像入手元	20世紀フォックス・ホーム・エンターテイメント・ジャパン (DVD/Blu-ray)
原作の有無	無
支持反応	Metacritic 評価 (批評家 85、観客 8.2) Rotten Tomatoes 評価 (批評家 93、観客 96)
キーワード	借金、偽装、誘拐、身代金、ファーゴ、コーエン兄弟、田舎町、金銭欲、ポール・バニヤン、ミネソタ、ほら話 (トール・テイルズ)、アメリカン・ユーモア。

Copyright © Junko Shimizu All Rights Reserved.

★本サイトに掲載される情報の著作権は、清水純子に帰属します。

許可なく複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、販売、出版等を禁止します。